

スパークタイムズ 第4号

平成25年12月23日
市議会議員 坂澤博光

1 平成25年度12月議会のまとめ

平成25年12月議会は、11月26日に開会、12月9日、10日の代表質問・一般質問、12日、13日の各常任委員会を経て、12月18日に本会議で提出された案件を議決し、閉会しました。

議決案件は合計28で、市役所職員さんの減少と使用したお金の確定に伴う補正予算が4件、総合計画策定や職員さんの給料表の改正などに伴う条例制定・改正が9件、那加福祉センターや総合体育館などの管理運営者を決める指定管理者に関するものが9件、市道の廃止・認定に関するものが1件、意見書に関わるものが5件でした。

2 スパークの一般質問

12月10日の一般質問において、約40分間、次のことについて質問しました。

(1) 地域防災計画の見直しについて

・質問の主旨

台風26号は関東地方に甚大な被害を及ぼしました。その原因の一つに避難勧告を出す時期を決断する町長と副町長が共に出張中で、現場に不在だったことが挙げられます。この被害を他山の石として、災害に対応する際に最も必要な「決断する人」が、同時に、現場に居なかつたりしないよう、防災計画の一部を見直すためです。

・回答

各務原市には、市長と副市長が居ますので、「両者が同時に不在とならないよう努める」旨を地域防災計画に記載し、迅速かつ適正な判断ができる体制を明確にしていきます。

(2) 地域別計画の作成について

・質問の主旨

地域には高齢者が増え、誰にも知られずに亡くなったり、介護を必要とする人が増えたり、祭りの神輿を担ぐ人が少なくなってきました。

地域のつながりが薄くなり、災害が起きたときの救助に影響が出ることも懸念されています。

これらの問題を解決するには、「地域でできることは地域で」、「地域でできないことは行政で」という役割分担をし、地域と行政が協働して解決することが必要です。

地域の方が得意分野を活かし、子供たちや中高生を巻き込んだコミュニケーションの場をつくっていくプロセスに計画段階から関わることで、市民力、地域力を発揮することになりま



す。地域の問題解決には、このような場の設定が必要です。

・回答

自治会などを主体とした地域のまちづくり活動、課題解決の取り組みに対して、エリア担当職員の配置やまちづくり活動支援助成の制度などを検討しています。

(3) 安心ネットワークの進捗状況について

・質問の主旨

各務原市では、一人暮らしのお年寄りや虚弱なお年寄り夫婦に、夕食を手渡しで配布し、その際に安否確認したり、疾病、傷害のある方がボタンを押せば消防署につながるようにして安否確認をしたりしています。

地域でも自治会や民生委員、近隣ケアグループの方の活動により見守りがされています。

今年度、家庭を訪問する機会が多い宅配業者から、安否確認に関する情報が得られるよう「安心ネットワーク」の構築を導入しています。

この計画の進み具合を確認するものです。

・回答

現在、各務原市金融協会に事業内容を説明し、協定書締結に向け準備を進めています。今後、金融協会以外の企業や団体に呼びかけを行い、出来る限り多くの事業所と連携し、地域での見守りの輪を広げていきます。

3 民生消防常任委員会での質疑

今年度、民生消防常任委員に指定されていますので、委員会での質疑を報告します。

(1) 那加福祉センターなどの管理者を指定するために指定管理者選定委員会があります。

どういう基準で選定しているか聞きました。

回答：選定評価項目は、利用者に対するサービスの向上、施設の適切な維持管理、経費の縮減、管理運営体制、指定管理料などを合計 100 点満点で数値化して評価しています。

(2) 市では、地域のボランティア、自治会、民生委員、近隣ケアグループの協力を得て、ボランティアハウスを立ち上げ、その際に補助金（県と市から）を出しています。

25 年度で県の補助がなくなるが来年度以降の見通しは。

回答：県からの補助はなくなるが、1カ所50万円を限度に市から補助金を出します。

第4回市政報告会

とき：平成26年1月26日（日）13時から14時

ところ：雄飛ヶ丘公民館（那加雄飛ヶ丘町12-15）

連絡先：各務原市那加昭南町 97-1-201 坂澤博光

電話&FAX：058-371-1270、Eメール：hir_skzw@d1.dion.ne.jp

ホームページ：「さかざわ博光」で検索